

「単語力がない」といっても完全に“0”という人はおそらくいないでしょう。しかし、レベルを問わず学習者の多くが語彙 (vocabulary) の不足と、それに伴うリーディングでの不自由さを感じているはず。そういった場合、どう対処すればよいのでしょうか。

本書の基本的なアプローチは、いくつかの読解テクニックを理解して習得することが、効率的でよどみない英文リーディング — すなわち、“知らない・わからない語句”があってもいちいち辞書に頼らずにすむ読解力 — へのカギになるということです。本書では、このテクニックを大きく2つ (細かくいえば3つ) のステップに分けてマスターしていきます。

第一のステップは、単語の構造自体を学習することです (第1章)。接頭辞と語幹と接尾辞がもつさまざまな意味に気づくことにより、「難しい」と思われるいろんな単語の意味が明らかになるのです。

次のステップは、段落 (paragraph) と文章 (passage) に関わる学習です。

英語の段落がもつさまざまな構造をマスターし (第2章)、さらに、一連の段落がつなぎあわされて、より長い文章を構成するさまざまな方法をマスターします (第3章)。もし、みなさんが英文をすらすらと楽に読めるようになりたいなら、これらのテクニックをマスターすることが非常に役立つでしょう。

このアプローチは現在大勢を占めるやり方といくぶん異なるものです。英文リーディングといえば、一つ一つの単語や文にこだわって、英語の文章を暗号のごとく解読して日本語に置き換えるという作業に従事する機会が多いのではないのでしょうか。実は、本書で採られたようなアプローチは、たとえば欧米の学校で、自国語の読解を学習するさいに採られるものとかかなり似ています。

本書は、実務の場で毎日英語を読んだり、使ったりする人たちに役立つのももちろんのこと、各種資格試験や大学入試の対策に用いたり、英語の長文演習をしたり、さらには英文和訳の力を向上させたいといった場合にも資するはず。本書のアプローチに忠実にしたがえば、みなさんの英文リーディング力は、速さと正確さの両面で大いに向上することでしょう。

2008年6月

勝見 務

クリストファ・バーナード

本書は、最初から順を追って取り組むことにより最大の成果があがるように構成されています。したがって、目に付いた箇所をかつまんで読むといったタイプの本ではありません。

まず、各章の最初に、その章についての概説が書かれています。これは、その章で学習する内容を理論と実践の両面から紹介したものです。まずそれを注意深く読み、十分に理解するようにしてください。

次に、本文は多くの場合、例をあげながら演習形式で解説しています。問題を解くつもりで、その章の趣旨を頭に入れながら読み進めてください。

各小項目の終わりごとに、その理論とメソッドの理解を試すための練習問題 (Exercises) が用意されています。

本文中の例や練習問題の英文には、語句注 (Notes) がほどこされ、さらに日本語訳も用意されていますが、最初はそれらにはなるべく頼らず、最後の確認や、あるいは英文の素材が本当に難しいと感じた場合にのみ参照するようにしてください。

本書の学習と並行して、他の英語教材にも取り組み、本書で学んだテクニックやアプローチをそれらの教材に使ってみるのも良い考えでしょう。